

カトリック 大名町教会ニュース

DAIMYOMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER

〔ミサ時間〕主日ミサ:(土)19時/(日)7時・9時30分/英語ミサ(日)16時

〔ホームページ〕<http://church.jp/catholic-daimyoumachi/>

〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7 〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ(土)18時

Tel:092-741-3687 Fax:741-5107

〒819-0012 西区能古弁当 1621-12

発行責任者:杉原寛信神父

2

福岡教区年間テーマ：信じる喜びから 伝える喜びへ

大名町教会年間テーマ：全ての人に対してキリストの光でありなさい！

Be the light of Christ to everyone.

ご案内：お祈りください



- ・司祭叙階式：
3月20日(土)11時
受階者：マルチェロ・アパメア
ジョン・ウォンチョル助祭
- ・カテドラル大名町教会

- ・助祭・司祭候補者認定式：
2月23日(火)11時
候補者：
イグナチオ 吉浦 勲
- ・カトリック伊万里教会



ライブ配信されたアベイヤ司教様主式のミサ

お知らせ

3月19日『聖ヨゼフの祭日』は、アベイヤ司教様の霊名のお祝いです。祈りをもって準備し、当日は教区民全員で心一つにし、各々で意向をもってお祈りいたしましょう。

カテドラルでは、10時から司教様司式の感謝ミサの予定。

公開ミサ 再延長について

- ・福岡県において2月2日に緊急事態宣言が延長されたことに伴い、福岡教区において公開ミサ中止の期間が延長されることになりました。
- ・福岡県の緊急事態宣言が解除され次第、大名町教会における公開ミサは再開いたします。
- ・公開ミサ中止期間中、YouTubeによる主日のミサのライブ配信が行われています。
- ・毎日曜日10時。<https://www.youtube.com/>「カトリック福岡司教区2021年2月21日」などで検索。

ゆるしの秘蹟：希望者は、個別に司祭に依頼してください。

ひょんな…
ガッツポーズ?!

緊急事態宣言下、日々、司祭のみのミサをささげています。ある聖書箇所を黙想していましたが、ふと「ひょんなこと」を考えてしまいました。もしイエス様の公生活の3年間にコロナが蔓延していたならば、イエス様はコロナにかかっていたのだろうか、と。皆さんはどう思われますか。

イエス様は公生活で多くの人と出会い、数々の病を癒されますが、自ら病気になることは一言も聖書に書かれていません。イエス様の神性を強調してのことなのでしょう。しかしながらイエス様も人間であるなら、コロナにかかる可能性はきつとあったのだろうと思います。人間なら誰もが罹りうるコロナウイルスです。近い将来、イエス様もわたしたちと同じようにワクチン摂取のために列をなしている姿が目に浮かびました。

そのことに思いがいたったとき、わたしは心の中でガッツポーズを、ひそかに、嬉々として取りました。神様はわたしたちのあらゆる限界を抱きしめて離さないのだと思います。わたしたちと同じ苦しみ、欠乏を味わい、生きて、死んでゆく人間となられたイエス様。「連帯」をわたしたちに教えてくれているように思います。いつも誰かとともに歩めるキリスト者でありたいと思います。

カトリック大名町教会

協働司祭 ペトロ 船津 亮太

教会の鐘の音にのせて



金曜日の14時、鐘の音に心を合わせます。

昨年5月15日（金）から鳴らし始めた医療従事者への感謝とエールを届ける「教会の鐘」は、2月12日（金）で40回目になりました。

毎回10数人の信徒が鐘の下に集まります。時には、道行く人も心を合わせてくださり、拍手と共に感謝を送り続けています。しかしながら、未だコロナ禍の終息にはほど遠く、10都道府県では非常事態宣言が発出されたままとなっています。

一方、公開ミサも中止となり教会での活動も自粛している間に、新たな心痛む出来事が重なりました。昨年7月の熊本豪雨災害は未だ完全復旧に至っていません。更に、大震災から10年という矢先の2月13日には福島県沖を震源とするM7.3の地震が発生しました。

そして、ただ巣ごもり状態の一人では何もできないことに寂しさを感じて思いました。これらの豪雨災害や地震災害で被災された人たちの苦しみや不安に、私たちが一緒に寄り添うことが出来れば、私たち自身も共同体のつながりと一致を具体的に確認し合えるのではないかと。

そして、共同体の皆さまに提案をさせていただきますたくて書いています。

毎週金曜日、午後2時の教会の感謝の鐘の音に、これらの願いものせて響かせませんか。共同体の一致の印として、その時間に教会の鐘の下で、或いは、皆さまのそれぞれの場所で、共に心を寄せてくださることを願っています。

十字架の下に最後まで佇まれる聖母マリア様にならって、「アヴェマリア」の祈りを一度 唱えたいと思います。

パウロ 吉田俊雄

新成人の 祝福を受けて



感謝を述べる
竹原辰実さん

7436日、この数字は私が産まれてから今日までの日数です。この新型コロナウイルスの中で、人生を無事に迎える事ができ、人に嬉しく思っています。私は産まれてからこれまで20年間、この大名町教会にお世話になっていきます。幼い頃の私は、

僕は大名町教会で侍者をしながら、とても感動し心に残った出来事があります。それは、クリスマスミサで侍者をして、初めて香炉持ちをした時です。神父様が、祭壇の前で跪き、香炉を振っている自分に、翼が生えたように感じる、そして神様のすぐ隣にいるような感じがして、もの凄く温かい気持ちになりました。2021年1月10日、成人式

を迎え、これまで20年間自分を支えてくれた家族や仲間、そして多くの方々に本當に感謝の気持ちでいっぱいでした。これからも感謝し、自らの目標や夢に向かって諦めず最後まで努力し続け、達成できるよう頑張りたいと思います。大名町教会に感謝です。これからもお祈りしてまいります。新型コロナウイルスがいつ終わるかまだ分かりませんが、皆様があるようお祈りしてまいります。これからよろしくお願い致します。

大名町教会新成人
パウロ 竹原 辰実

大名町教会1月の現勢

【洗礼】

1月10日

・マリア テレジア

美智子

・転出（教会へ）

・マグダラのマリア

・オム ウンスク

（韓国）

【結婚】

1月9日

・幼きイエスの聖テレジア

柚木 文香
川上 陽介

【帰天】

1月16日

・マリア

目良 悦（95歳）

感謝

福岡教区中に、
みことばを配達
そして70年



昭和25年7月、福岡市本町（現築港本町）に「女子パウロ修道会」が設立された。前年24年10月に大名町教会に隣接して設立された「男子パウロ会出版部」を、昭和28年5月に、「聖パウロ書院」として、引き継いだ。
旧大名町教会聖堂の右隣り、「万町電停」の前である。
出版、報道を持つての使徒職活動が始まって68年。福岡での70年に亘る宣教活動を縮小し、福岡市中央区小笹の聖パウロの丘の最後の修道院から、2月11日に4人のシスター方が東京の本部へ帰っていかれた。初期には、福岡教区内を佐賀や熊本、天草までも車を走

らせ、家庭を訪問し、神のみ言葉を届けていた。旧岩田屋の店内に販売店を持ったこともあった。出版を前に谷口厚子シスターは、「とにかく、感謝しありません。」と話された。



岩淵です。よろしく
お願いいたします。

これからも大名町教会の看板でもある「セントポール FUKUOKA」は、そのまま引き継がれ、わたしたちの信心の支え、宣教の力として利用は続けられます。（責任者：西新教会の岩淵恵さん。他2人）。

ありがとう！

大名町教会の皆さまに感謝



オム・ウンスクさん

1月31日に福岡を立ち、2月2日に成田空港から韓国の仁川空港に帰着しました。
日本での9年1ヶ月、日本生活の支えとなってくださった大名町教会に心から感謝いたします。最

初は日本語の祈りの言葉も知らず、まずは主の祈りを覚えることから始めました。典礼聖歌の旋律が耳に慣れてきてから聖歌隊に入っていたいただきました。ちょうど降誕祭の聖歌練習への参加案内があり、日本の聖歌をもっと知りたい、もっと歌えるようになりたいと思っていた私にはチャンスだと思えました。でも歌に自信が無く、断られたらどうしよう、と心配しながら皆が歌っている周りでもじもじしていた時、優しく声をかけて誘ってくださる方がいらっしやいました。それから週1回、夜7時頃からの聖歌隊の練習にも加わることができました。

大名町教会での一番の思い出は、聖歌隊で皆さんと一緒に歌った事です。ミサの30分前に集まって、その日の聖歌の練習。ミサ後のお掃除の後、また集まっての練習では発声法まで教えていただきました。一生懸命教えて下さっているのに言われる通りに出来ない自分に悔しがったり、笑ったり、とつてもとつても楽しく嬉しかった時間をたくさん思い出します。日本の教会の事を習おうと思つて神父様のキリスト教講座に入つて、いろんなお話を聞くことができたのもよかったです。韓国で1998年12月に洗礼を受け、体だけが信者みたいな感じでした。が、再び神さまのことが少し分かるようになりました。

韓国でも平日のミサによく行きましたが仕事などで奉仕はできていませんでした。大名町教会での朝のミサの準備を手伝ったのがきっかけで、香部屋の奉仕ができるようになり、サクリスチアにも入らせていただきました。平日のミサ、主日のミサの準備と片付け、祭具の手入れ方法も教えていただきました。何回も教えていただき、繰り返し練習、確認、でもどこかで手落ち、それでも怒らず、優しくやり直しをさせてくださった神父様、サクリスチアの皆さんにも感謝と愛の気持ちでいっぱいです。外国人の私に心を開き、大名町教会の家族として受け入れていただき、いつも温かく優しく見守っていただいたこと、絶対に忘れません。

1月31日が日曜日でしたので、最後のミサに与り、皆さんに挨拶して出発したいと思っていました。が、緊急事態宣言で公開ミサがなくなり、最後のミサに与ることができず、最後のミサに与ることができませんでした。

でも、韓国は近いし、コロナが終息すれば以前みたいに自由に往来ができると思います。又の再会を楽しみにします。大名町教会のためにお祈りいたします。本当にありがとうございました。

マグダラのマリア

オム ウンスク

おげんきで！



2月の宣教司牧評議会

検討事項

- 1 クリスマスの振り返りについて
- ・ 事前申込者に比べ、参列者が少なかった。
- ・ 英語ベトナム語による揭示は、よかった。
- 2 クリスマス特別献金の使途について
- ・ 例年に比べ半減、使途については教区災害支援室に送金することにした。
- ・ 合わせて行った福島リンゴ販売、司教館からの晩白柚売上金も一緒に支援室に送金した。
- 3 営繕特別献金について
- ・ 営繕特別献金を開始している方、未納が続いておられる方に、依頼文書の再送付予定。
- 4 積立金取り崩しについて
- ・ 本年度の営繕工事のため、積立金の取り崩し了承。
- 5 教会事務について
- ・ 教会事務の新規採用を検討する。
- 6 女性の会代表任期満了に伴う、後任選出について
- ・ 選出方法について、若狭千賀子、大石和枝両委員に依頼する。
- 7 堅信式（1月31日）
- ・ 緊急事態宣言により延期となる。今後の予定は未定。
- 8 歴代主任・助任司祭の写真揭示について

四旬節

- ・ 2月17日（水）四旬節 灰の水曜日（大斎小斎）
- ・ 2月21日（日）四旬節第1主日
- ・ 3月28日（日）聖週間 受難の主日（枝の主日）
- ・ 4月1日（木）聖木曜日 主の晩さん
- ・ 4月2日（金）聖金曜日 主の受難（大斎小斎）
- ・ 4月3日（土）聖土曜日
- ・ 4月4日（日）復活の主日

- ・ 写真を掲示しては、との意見あり。検討する。
- 9 教会学校リーダー研修について
- ・ 経験豊富な方々に、研修を依頼する。
- 10 教会規則について
- ・ 最終版を4月施行にむけて準備している。
- 11 SNSの活用について
- ・ 宣教司牧評議会でも検討していく。
- 12 成人の祝福式のふりかえり
- ・ 信徒の皆さんから祝福を受け、大切なよい思い出となった。
- 13 新型コロナウイルスの対応について
- ・ 座席使用者本人による消毒をお願いしているが、ウェットティッシュなど持参されていない信徒急増。再度お知らせなどにより感染防止のため周知徹底をする。
- 14 消防訓練の実施について
- ・ 年2回の義務付けあり。コロナ禍の状況の中、どのような形で実施できるか確認する。

会長のつぶやき

歩くこと
それは旅でしょうか！

☆ ゆっくりあるこう
聞こえない声を聴くために
☆ ゆっくりあるこう
見えない痛みを味わうために
☆ ゆっくりあるこう
そばにいる人に気付くために

最近、イエス様と弟子たちの問答を心に留める。「何を求めたのか」「どこにお泊りですか」「来なさい、そうすればわかる」「心地よい風を感じながら、小さな春を見つけたに散歩に出かけた。」「ことなしまつり」という小さな天台宗のお堂に、仏の言葉があった。ここは神仏習合の地で、近くの小学校の子どもの地帯の歴史を学ぶ場所でもある。しばらくすると20人程のお年を召した方が、ここに一人ながら歩いてこられ、参拝。の「歩こう会」の人達だと、公民館の「歩こう会」の人達だと、天の良し、今日は中山神社から、ここ円珠院、そして曲渕の熊野神社まで歩くという。5キロ位歩くのだらう。コロナ禍、ほっこりする清々しい空間に出会う

ことができた。
先日、私の巡礼記をお贈りした、高校時代同窓の禅寺の住職から「人生は旅のようなもの、お互いにいたいただいた命大切に使用てまいりました」と、見事な筆で書かれた含蓄あるお礼の便りが届いた。
フランシスコ教皇様の言葉が心の奥底に響く。
《教会は、主に向かつて旅を続ける》「信仰は生ぬるい思いではなく、燃え上がる炎で、神を求め熱望、愛する勇気、常に大胆な姿勢、愛する勇気、常に前進することです。」「一教会が神を礼拝し、私たちの隣人に奉仕する時、夜の中を歩むことはありません。」と。
住職のことば通り、いただいた命を大切に使うとは神仏に感謝し、教えを守り、神仏に向かつて、他者のために旅を続けていくこと。それは、天の故郷への旅ということでしょうか。
主日のミサの説教の最後に、司祭が「今日の私たちの心を留めこの1週間を歩んでまいりましょう。」と信徒に促し、派遣する。まさに旅なのです。いつも歩いておられる司教様のお姿が浮かびます。そのように感じる今日この頃です。

大名町教会信徒会長
フランシスコ・ザベリオ

濱崎 公夫